

平成27年度学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校)

目指す学校像	尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。
--------	-------------------------------

重点目標	1 互いの信頼関係のもと、自走する生徒集団づくりをとおして、目指す学校像の実現に取り組む。 2 生徒に、第一志望はゆずらない、との堅い信念を持たせ、全ての職員が全力をあげて生徒一人一人の進路実現に取り組む。 3 保護者・県民に対する情報提供をとおして、開かれた学校づくりを推進するとともに、浦和高校の良さを積極的に発信する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 2 4 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	高校入学段階で、主体的に行動できる生徒が少なく、自走(自立)を待つ指導ではなく、自走を促す指導が必要である。各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導の研究と実践が必要である。	自走する生徒集団づくりをとおしてリーダー育成の推進	ア 授業への集中、早朝・部活後学習、時間・モノの管理、週番会、挨拶、清掃、部活動、行事等を主体的に行えるように促す。 イ 仲間と協力し合って学習し、修学旅行をはじめとする行事を創り上げる生徒集団を育成する。 ウ 授業や部活動や学校行事で得た仲間を主体的に行動する集団へと進化させ、個々の人間的成長を促す。	ア 年度末に実施するアンケートにより、主体的に取り組めたという回答が7割を超える。 イ 年度末アンケートで主体的に取り組めたという回答が7割を超える。 ウ 卒業生アンケートで「ともに頑張る仲間の存在」や「学習をとおして人間的成長」を感じた生徒が7割を超える。	(年度末に結果確定) ア 授業や部活動に主体的に取り組めたという生徒は79%、この1年の浦高生活で成長したという生徒は85%であった。 イ 主体的に取り組めたという生徒は60%、この1年の浦高生活で成長できたという生徒は69%であった。 ウ 部活動や学校行事には仲間とともに取り組み、学習面では自ら課題を設定して取り組むなど、主体的にそして年次の集団力で人間的に成長したと実感した生徒は85%であった。(4月28日現在)	B	ア 様々な活動に取り組む姿勢は身につけてきたが、自ら考え行動できるようになることが今後の課題だ。3年次への自走へ向けて自立させたい。 イ 数値は低めだが、個々の生徒の努力や成長度は良いものが多数あるので、これを学校全体へ広げていきたい。 ウ クラス担任による関わりに加え、教科指導や部活動・学校行事等に取り組む際などでも、様々な立場の教職員がアドバイスや励ましの機会を多くもてるようにする。(4月28日現在)
2	以下の観点による授業改革及び教員の経験の蓄積・共有を更に推進する必要がある。 ①学習姿勢の、依存型から自主型への転換 ②各教科・科目の基礎基本の早期徹底、及び書いて考える力の育成 ③大学入学後までも見据えた高度な授業内容 ④SGHの趣旨をふまえ、グローバル化社会を視野に入れた志の育成 併せて、多くの生徒が目指す国公立大学進学を現役で実現させるための学習指導・進路指導が必要である。	指導力の向上と、生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進 高い志を育成し、進路実現を支援する取組の推進	ア 教員の授業力の向上を図るとともに生徒の主体的な学習を促す授業改善のため、教員同士による授業公開の実施(1ヶ月の授業公開期間を年2回設定)、及び教科毎に授業検討会を実施する。 イ 生徒の主体的な学習を促すための、生徒による授業評価アンケートを実施し、各教科(科目)の授業改善に生かす。	ア 授業公開・授業検討会の後に実施した教員アンケートで、授業力が向上し、主体的な学習を促す授業改善に生かすことができたという回答が7割を超える。 イ 教科(科目)毎に作成した授業評価アンケートを年1回以上実施し、各教科(科目)でまとめ、授業に主体的に取り組めたという回答が7割を超える。	ア 授業公開を6月と11月に実施。他の授業を複数回見学した教員は65%であった。11月については重点公開者(5人)を決め、授業後に教科の枠を超えた検討会を行った。授業改善に生かせるという回答は91%であった。普段見ることのない他教科の授業方法をつぶさに見て参考になったという意見が多かった。 イ 授業評価アンケートを実施した結果、ほぼ全ての教科・科目で授業に主体的に取り組む生徒は7割を超えた。様々な授業改善の取り組みが成果を上げている。(4月28日現在)	A	生徒の主体的な学習を促すために、授業公開の方法を工夫・改善した。未来を拓く「学び」推進員である本校教員により協調学習の手法を取り入れた授業実践も多数行われた。検討会も行い、授業改善の取組が活発になった。 生徒の変容を分析し、必要があれば次年度に取組を見直したい。
3	HPや教育活動説明会、土曜公開授業などを通じて情報発信を行ってきた。本校の様々な取組や成果について、より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、中学生の保護者をはじめとする県民のニーズに応える必要がある。	開かれた学校づくりの推進	ア 全教職員による組織的・計画的な広報活動の展開 イ 保護者・県民に向けた土曜公開授業の実施 ウ HPを活用した情報公開および利便性の向上 エ 小中学生・保護者・中学校教員・教育関係者向けの説明会の実施 オ 学校情報提供の機会を積極的に活用	ア 広報委員会主催の行事を滞りなく実施する。 イ 土曜公開授業をのべ500人が見学 ウ 新規アクセス数20万回以上 エ 学校の他に公共施設も利用し、本校主催の教育活動説明会を2回開催、のべ1500人が参加 オ 本校主催以外の説明会等に教職員を派遣し、のべ2000人に本校の紹介、説明を行う。	ア 入学者選抜の周知、学校紹介行事の企画・運営が滞りなくできた。 イ 土曜公開授業をのべ990人の保護者・県民が見学した。 ウ 2/3 現在、新規アクセス数は830,918回に達した。 エ 2回の説明会合わせてのべ2200人が参加した。(第1回1300人、第2回900人) オ 各種教育関係事業・機関等の合同説明会で、のべ3690人に本校の紹介説明を行った。(塾主催の説明会参加者と彩の国進学フェアの資料配布状況からの概算)	A	年初の目標をすべて達成することができたが、全人教育を目指す浦高教育の良さを県内外へ広報していくため、より一層発信するコンテンツの充実をはかる。特に中学生はもちろん小学生の保護者への広報を工夫したい。 また委員会だけでなく、多くの先生方に協力してもらえるような全校をあげての広報活動の仕組みづくりも行いたい。

学校関係者評価	実施日 平成28年 3月 5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>入学時のアンケートを生徒に戻すことも大事。自分で変容を気づかせるためにもフィードバックするとよい。 雪の日に駅の方や公民館の裏の方まで雪かきしてくれた生徒がいた。非常にありがたい。</p> <p>誰でもどこでも、というのではダメで、重点公開者を決めて授業公開することは非常によい。検討会も少人数で行うと議論が深まってよい。 生徒がどう授業を受け止めるかも大事だが、教員側もどう受け止めるか。中間段階でアンケートをとるなど時期の工夫も検討してほしい。</p> <p>SGHの報告会では中継された映像を通じて様子を見たが、いろいろなことを研究されていて、ただただ感心している。 SGH報告会の様子を、同窓会も含め誰でもみられるようになれば浦高のPRになる。 講演会などでは同窓会組織をフル活用してはどうか。 各大学での学問分野や研究内容について、情報提供を積極的に行ってほしい。</p> <p>地元の中学へ行かない児童が急増している状況を見ると、小学生の保護者への説明会も重要になってきているのではないかと。 塾の説明会も積極的に利用するなどPRをさらに工夫してほしい。</p>